

研究課題：8020 推進員など口腔保健を推進する住民グループの組織化に関する研究

研究者名：齊藤恭平<sup>1)</sup> 佐々木健<sup>2)</sup> 吉村圭司<sup>3)</sup> 上田 昇<sup>3)</sup>

所属：<sup>1)</sup> 東洋大学ライフデザイン学部 <sup>2)</sup> 北海道保健福祉部 <sup>3)</sup> 函館歯科医師会

### 【目的】

わが国のオーラルヘルスプロモーションを概観したときに、「地域活動の強化」に関して効果的な活動が展開されていないように見受けられる。日本歯科医師会は 8020 運動の一環として、8020 推進員養成を事業化し全国に推進したものの、その実態は既存の地区組織である保健推進員や食生活推進員に依存する場合や、8020 達成者を表彰するような実態に終始しており、住民が主体となった口腔保健に関する効果的な地域活動に育っているケースは多くない。

そこで本研究では、歯科保健に関する研修会の修了生のエンパワーメントと組織化を試み、主体的で活動的な新しい口腔保健住民組織（8020 推進員）へと育成するための効果的な育成プロセスを模索することを目的とした。

### 【方法およびプロセス】

北海道歯科医師会の主催により実施されているハッピーマウスサポーター養成講座のうち函館歯科医師会との共催により実施された講座に関して、平成 22 年度からの修了生（112 名）に案内を送付し、集まった修了生 33 名を対象にワークショップを実施した。ワークショップではブレイン・ストーミングを中心に実施し、修了者がやってみたい活動を抽出することを目的とした。また、同時にドット投票法により可視化のうえ活動アイデアのウエイト付けを実施した。

得られた活動アイデアは歯科保健医療関係者（歯科医師 8 名、歯科衛生士 2 名）により、ウエイト付けし、同時に歯科保健医療の専門職の立場から期待する活動についても抽出した。

これら質的データの統合し分類したうえで、修了生を組織化した以降に必要な活動の抽出を試みた。

### 【結論】

修了生が望む活動は、簡単な歯科保健に関する学びの機会や、子どもや町内会を対象とした歯科保健知識や特定の歯科保健行動や運動（パタカラ体操）などに関する普及啓発活動、または食や栄養を中心とした学びや交流の場などである。

また、このような組織化した集団を維持するための取り組みとして、食事会や運動イベントの提供、また場合によっては旅行のような行事の設定も必要であることが理解できた。

今後はこのような研究結果を反映させ、修了生との協議をしながら年間の活動計画を作成し、役割を決めるという組織化の作業が必要となる。